

(仮訳)

プレス・リリース

2020年10月9日

金融安定理事会は、ISDA IBOR フォールバック・プロトコルへの広範かつ適時の批准を推奨

金融安定理事会 (FSB) は、国際スワップ・デリバティブズ協会 (ISDA) による、IBOR (銀行間取引金利) 参照デリバティブ契約に関する IBOR フォールバック・プロトコル (以下、「プロトコル」) および IBOR フォールバック・サプplement (以下、「サプplement」) の今後の開始に向けた本日の声明を歓迎する。FSB は、影響を受けるすべての金融機関および非金融企業による、プロトコルの広範かつ早期の批准を強く推奨する。プロトコルの広範かつ早期の批准は、LIBOR (ロンドン銀行間取引金利) の全通貨におけるデリバティブの移行の主要な原動力になり、2021 年末までの金利指標の移行における重要な一歩となる。

LIBOR からの移行は G20 の優先課題であり、グローバルな金融システムを強化するための不可欠な作業である。FSB は、すべての法域における企業が、適切な場合には IBORs への依存を低減し、とりわけ 2021 年末までに LIBOR への残された依存を取り除くために、取組みを継続すべきとの考えを改めて表明する。この一環として、市場参加者は、IBOR や他の金利指標が恒久的に公表停止となった場合に適用されるフォールバックの取決めを理解し、こうした場合に生じ得る深刻な市場の混乱を防ぐ上で、これらの取決めに十分な頑健性を確保することが推奨される。プロトコルと ISDA のフォールバックに関する文言は、大半のデリバティブ契約にフォールバック条項を導入し、フォールバック条項が発動された際、IBOR エクスポージャーをリスク・フリー・レート (RFR) に連動するものに置き換えるための、即座に利用可能な手段を提供する。

FSB の公的部門グループ (OSSG) は、グローバルな金利指標改革の一環として 2016 年 7 月以降に取り組んできた、デリバティブ市場の頑健性を強化するための重要な作業計画の中で、ISDA に定期的に関わってきた。プロトコルおよびサプplementによって備わる、フォールバック条項と関連するトリガーの内容は、広範な市場コンセンサスが得られた、ISDA による一連の市中協議に基づいている。FSB は、現在参照されている IBOR の公表が停止となった場合、あるいは LIBOR が指標性を喪失した場合に、対象となるデリバティブ契約における混乱を避け

るために、金融機関および非金融企業が取り得る確実な方法として、プロトコルへの批准を推奨する。プロトコルの広範な採択は、プロトコルがシステム全体のリスクを軽減する上で有効であることを確保するため、必要不可欠である。一部、あるいはすべての関連する取引について、プロトコルを批准しないことを選択するすべての市場参加者は、混乱を引き起こすリスクを避けるため、ポジションの解消や当事者間における適切な契約の修正など、頑健な代替措置を講ずる必要がある。

英・イングランド銀行総裁で、OSSG の共同議長を務めるアンドリュー・ベイリー氏は、「ISDA プロトコルの最終化は、2021 年末までに LIBOR を参照した既存契約に対処する上で、重要な一歩だ。数兆ドルのデリバティブ契約について、市場が頑健かつ信頼できるフォールバック条項を具備することを確保するための取組みに関して、ISDA に感謝の意を表したい」と述べた。

米・ニューヨーク連邦準備銀行総裁で、OSSG の共同議長を務めるジョン・ウィリアムズ氏は、「ISDA のプロトコルは、LIBOR からの移行に向けた更なる重要な成果だ」「既存のデリバティブ契約が、強力なフォールバック条項を備えていることを確保するため、企業が速やかにプロトコルを批准することが極めて重要だ」と述べた。

FSB および OSSG の共同議長は、金利指標の移行に向けたこの重要な一歩を実現するための ISDA の作業に対し、感謝の意を表す。